

小林委員（自民議連）

平成 31 年 2 月 27 日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問） A I 時代に適応した新たな教育の可能性について

A I 時代の到来に従い、まず、A I と教職員との住み分けをどうしていくのか、また、A I 時代に適応した、教職員という人間ならではの教育指導をどう考えているのか、併せて教育長の所見を伺う。

（答）

A I などの急速な発展に伴い、「ソサエティ 5. 0」と言われる超スマート社会が到来しつつある中、今後は、これまで以上に一人一人の子供に寄り添った、多様で質の高い学び、いわゆる「アダプティブな学び」を実現していく必要がございます。

こうした学びの実現に向けて、教員は、「教える」から「学びを支える」へと役割の転換を進めていくことが求められており、例えば、基礎的な知識・技能の定着を図る学習活動などにおいて、A I や I C T などの力を最大限活用していく必要があると考えております。

また、そのためには、将来的に、児童生徒一人一台のコンピュータ等を活用できる学習環境を構築していくことが望ましいと考えております。

そして、その上で、教員自身は、子供一人一人の状況をしっかりと踏まえながら、知識・技能の深い理解や、思考力・判断力・表現力、さらには、学びに向かう力や人間性等を育む教育活動に、より一層重点的に取り組んでいく必要があるものと考えております。